

## 上宮寺通信

第九号

## 新元号「令和」

元号が令和となりました。新しい時代の幕あけです。令和の出典は『万葉集』で、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」の意味が込められているそうです。

元号として「令」の字が使われたのは初めてですが、「和」は、近いところで昭和があります。いままで令和を含めて20回あるそうです。やはり「和」の精神が日本の精神文化に深く根付いているからでしょう。

「和」で思い出すのが聖徳太子です。昔は一万円札に描かれていました。日本の歴史上、大きな貢献をした偉人とされています。

たのですが、いまやその実在さへ疑われて教科書でもその名前が消されるのではないかと言われています。

実在するかどうかの問題はさておいて、聖徳太子は日本の仏教にとつてもたいへん大きな貢献をされました。親鸞聖人も「和国の教主聖徳皇」と、聖徳太子は日本のお釈迦様であると言われています。

親鸞聖人はその生涯に二度、聖徳太子から夢のお告げをいただいたと言われています。一度目は19歳の時。磯長（しなが）の御廟（大阪府）に参られたとき、「汝の寿命はあと十年である。命終わったら速やかに浄土に往生するだろう。だから本当の菩薩を心から信じなさい」と

いう聖人にとってはドキッとするようなものでした。その後、心を新にして再び比叡山に登って修行に励まれます。

二度目は、29歳の時です。いよいよ修行に行き詰まって、聖徳太子の創建といわれる京都の六角堂に籠（こも）られました。その95日目のあかつきに聖徳太子が観音菩薩の姿であらわれ、比叡山を下りて法然上人のもとを訪ねる決意をされます。

新たな人生を始めるとい意味では19歳のときのお告げが当たったともいえます。

このように親鸞聖人の生涯にとつても大きな影響を与えた聖徳太子ですが、ご自身の功績として有名なものでは十七条憲法の制定があります。

第一条は「和を以て貴（とうと）しとなし、忤（さから）うこと無きを宗とせよ」。平和を大切にし、争うことのないことを規範とせよということでした。

仏教に深く帰依された聖徳太子が一番初めに言われるのが「和」ということです。ここに聖徳太子の願いが込められています。それをずっと日本の精神の基本としてきた。だからこそ日本の元号で20回も使われているのでしよう。

新しい令和の時代が、穏やかに暮らせる平和な時代であることを願いたいと思います。



◆行事案内

上宮寺の行事

5月14日(火)～15日(水)

三寺会 特別企画

山梨・親鸞聖人ご旧跡めぐり

6月23日(日)

上宮寺講

時間：午後二時～

※5月の上宮寺講はお休みさせていただきます。

皆さまのご参詣・ご参加をお待ちしています。

その他の行事

公開講座

「少年の矯正教育・社会復帰支援等の取り組み」

日時：5月29日(水)

午後四時～六時

講師：小柴直樹氏(豊ヶ岡学園長)

会場：名古屋教務所(東別院内)

主催：真宗大谷派名古屋教区

教誨師会・保護司会・民生の会

聴講無料

別院奉仕研修

期日：6月12日(水)

時間：午前十時～午後四時二十分

場所：東別院

内容：法話・清掃奉仕・座談・

諸殿拝観 他

参加費：二千元

※参加ご希望の方は上宮寺

もしくは別院へ。

◆話題あれこれ

○4月1日から4日まで、京都・東本願寺の「春の法要」に楽僧(雅楽を奏でる僧)として出仕してきました。寒の戻りで冬を思わせるような寒さで、指がかじかみながらもなんとか無事に役割を果たすことができました。

○五年ほど前から教誨師として、受刑者の更生のためのお手伝いを見せてもらっています。その教誨師の会の公開講座が5月末に開かれます。関心がありましたら、ぜひご参加ください。

○令和元年となりました。お経では「令」を「りよう」と読むことが多く、ついつい「りようわ」と言ってしまう。慣れるまでに少し時間がかかりそうです。

【雑感】

4月初めに四日間、京都の東本願寺に行ってまいりました。冬に逆戻りをしたような寒さでしたが、最終日は春の穏やかな日となり、名古屋に帰る前に観光をしてみました。寒さが続いたため満開には少し早いものの桜も見ごろ。山科にある勸修寺(かじゅうじ)に行ってきました。桜で有名な醍醐寺の近くですが、観光客も多くなく、ちよつとした穴場。「氷室の池」を中心とした庭園があり、水面に移る観音堂と桜はとても風情がありました。この時期に限らず、京都はどこもかしこも人でいっぱいですが、ここは落ち着いていておすすめですよ。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052・871・0547

